

---

# 円山川水系自然再生計画書

参考資料 [鎌谷川他県管理区間編]

平成 17 年 11 月

兵 庫 県

---

## はじめに

円山川水系では、明治期から現在にかけて、河道改修、排水機場及び水門・樋門の整備など多くの河川工事が実施され、治水安全度の向上が図られてきた。一方、社会経済活動の進展や流域の都市化、ほ場整備をはじめとする営農形態の変化によって河川と流域の環境も大きく変化してきた。

豊岡盆地は、国の特別天然記念物であるコウノトリの我が国最後の生息地であったが、昭和 46 年に最後の野生個体が死亡し、日本国内の野生コウノトリは絶滅した。その一方で、昭和 40 年より野生個体を捕獲し、飼育下でのコウノトリの保護増殖が進められてきた。豊岡市にある「県立コウノトリの郷公園」は、コウノトリの野生復帰を目指すものとして、平成 11 年に開園した施設であり、ここで人工飼育されたコウノトリは、現在 100 羽を超えている。また、兵庫県と豊岡市では、地域住民が主体となった「コウノトリ翔る地域まるごと博物館構想・計画」を推進し、「コウノトリの郷公園」周辺において、アイガモ稲作、野菜の有機栽培等、環境に配慮した農業施策を展開している。

これらを契機に平成 14 年 6 月に「コウノトリ野生復帰推進協議会」が設立され、平成 15 年 3 月に、「コウノトリ野生復帰推進計画」が策定された。

国土交通省と兵庫県は、コウノトリをシンボルとした地域づくりを進める中で、「円山川水系自然再生計画」を策定するため、地域の代表者や学識者等からなる検討委員会を設立し、地域連携を重視した取り組みを始めた。

平成 16 年 10 月の台風 23 号による円山川、出石川堤防の相次ぐ決壊は、豊岡盆地に未曾有の被害をもたらし、治水対策の重要性と河川改修の必要性が改めて浮き彫りになった。

円山川では今回と同規模の洪水に対して、再度の災害および床上浸水を防止するため、緊急に破損堤防の復旧と無堤地区の解消や避難体制の強化を図り、平成 26 年度までの 10 年間で緊急治水対策を実施する。当初 5 年間は重点対策として、河道掘削、堤防の高上げや橋の改築等の河道整備を行う他、支川合流部のポンプ場の増設など適切な内水対策を行い、その後は洪水時の水位を低減させるための遊水地の整備を行っていく。

円山川水系の自然再生は、コウノトリの野生復帰に向けた地域の取り組みと、災害防止のための治水事業が進められる中で、治水対策と合わせて河川環境の整備を行い、過去に損なわれた湿地や環境遷移帯等の良好な河川環境の再生を目指すものである。自然再生では、川の営力による自然の復元力を活かしつつ、施策実施後においても河川環境の変化を評価し、必要に応じて計画にフィードバックさせながら順応的・段階的な整備を行っていく。

「円山川水系自然再生計画検討委員会」は、平成 15 年 1 月から平成 17 年 9 月にかけて 11 回の審議を行い、治水、利水上の機能を考慮しつつ、河川における豊かな自然環境の保全・再生・創出を図っていくための計画を策定した。



【昭和 30 年の円山川】



【現在の円山川】 来日岳より上流を望む

はじめに

第1章 流域及び河川の現状

1.流域の現状	1-1
1.1 流域の概要	1-1
1.2 自然環境	1-2
1.3 社会環境	1-5
1.4 円山川流域の環境評価	1-9
1.5 河川と水路・水田の連続性	1-12
2.河川の現状	1-14
2.1 河道特性	1-14
2.2 水質	1-20
2.3 主な河川構造物	1-22
3.河川と流域の歴史の変遷	1-24
3.1 流域の変遷	1-24
3.2 河川の変遷	1-33
4.かつての円山川の姿	1-40

第2章 コウノトリの生態と生息環境

1.コウノトリの生態状況と保護の変遷	2-1
2.コウノトリの生態と生息環境	2-2
2.1 コウノトリの分類学的位置づけ、形態、分布	2-2
2.2 コウノトリの生態	2-3
2.3 コウノトリの生息環境	2-7
3.コウノトリの野生復帰に向けた取り組み	2-9
3.1 コウノトリ野生復帰推進計画	2-9
3.2 自然環境回復への取り組み	2-9

第3章 流域における課題と目標

第4章 河川別自然再生計画

1.自然再生計画対象河川	4-1
2.対象河川における課題・目標	4-2
3.鎌谷川流域	4-3
3.1 課題総括図	4-3
3.2 河川環境の変化要因と影響	4-4
3.3 整備方針総括図	4-10
3.4 鎌谷川流域の整備計画	4-11
3.5 整備メニュー	4-12
4.六方川・穴見川	4-23
4.1 課題総括図	4-23
4.2 河川環境の変化要因と影響	4-24
4.3 整備方針総括図	4-29
4.4 六方川・穴見川の整備計画	4-30
4.5 整備メニュー	4-31

5.三木川・大谷川	4-41
5.1 課題総括図	4-41
5.2 河川環境の変化要因と影響	4-42
5.3 整備方針総括図	4-45
5.4 三木川・大谷川の整備計画	4-46
5.5 整備メニュー	4-47
6.八代川	4-51
6.1 課題総括図	4-51
6.2 河川環境の変化要因と影響	4-52
6.3 整備方針総括図	4-54
6.4 八代川の整備計画	4-55
6.5 整備メニュー	4-56

第5章 段階整備計画

1.整備メニュー一覧	5-1
2.段階整備全体計画	5-2
3.整備メニュー別実施主体、施策の特徴等	5-4

第6章 モニタリング

1.モニタリングの概要	6-1
2.モニタリングの考え方	6-1
2.1 モニタリングの目的と基本方針	6-1
2.2 モニタリングの進め方	6-2
2.3 モニタリング手法	6-2
2.4 モニタリング頻度と調査地点の考え方	6-2
3.チェックシート(案)	6-3
3.1 保全箇所におけるチェックシート(案)	6-3
3.2 再生・創出箇所におけるチェックシート(案)	6-9
参考 6.1 チェックシート作成の考え方	6-21
参考 6.2 生物的評価指標の考え方	6-22

第7章 地域連携

1.地域連携の基本方針	7-1
2.保全・再生メニュー別の役割分担	7-2
3.地域連携の推進方策	7-3
3.1 取り組み方針	7-3
3.2 推進方策(案)	7-3
3.3 具体的な方法(案)	7-4
3.4 地域連携による発展仮説	7-4

第8章 自然再生計画の推進体制

	8-1
--	-----